

次期京都市基本計画（案）におけるウィズコロナによる追加・変更点（「第5回京都市基本計画審議会資料」から抜粋）

南区基本 計画の 未来像	京都市 基本計 画の政 策分野	基本方針	現況・課題	みんなでめざす 2025 年の姿	推進施策
地域力（みなみ力） が息づくまち	市 民 生 活とコミ ュニティ	－	・新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛の影響で、自治会・町内会等の会合や地域活動が制約される一方で、テレワークの拡大といった働き方の多様化等により、自宅や地域で過ごす時間が増えている。	1 誰もが気軽に参加できる居場所があり、顔の見える関係づくりや ICT（情報通信技術）を活用した新しい関係づくりを通して、人と人とがつながり、安心してくらすことができている ・従来からの積極的な日頃の声掛けなどによる顔の見える関係づくりに加えて、ICT を活用した新しい関係づくりによって、人と人とがつながり、安心してくらすことができている。	2 地域の多様なコミュニティの活性化に向けた支援 ・地域課題に取り組む多様なコミュニティの活性化に向けて、地域における担い手育成や新たなつながりづくり、円滑な組織運営のために行う取組などに対して、ICT ツールの導入サポートやまちづくりアドバイザーによる支援などを行う。
	ス ポ ー ツ		・新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまなスポーツの競技大会やイベント等が中止・延期となっている。		1 スポーツが身近にある健康で心豊かなくらしの実現 (3)生涯にわたってスポーツをみずから楽しむ機会の提供 ・ICT（情報通信技術）の活用などにより 感染症対策に配慮した新しい生活スタイルに適応し、安全・安心に楽しめるスポーツの機会の提供や、その情報発信の充実を図る。
子ども・若者が育つまち	学 校 教 育		・新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめとする緊急時にも学びの継続性を図ることができる学校体制の確立を図る必要がある。	3 誰一人取り残さない、多様なニーズ等に応じた教育が展開されている ・ICT 環境の下、学びの継続性を確保することで、障害をもつ子どもや不登校傾向の子どもも含め、子どもたちの可能性の最大限の伸長をめざす	2 子どもたちが夢と志をもって可能性に挑戦するために必要な力を育む教育の推進 (3) ICT 環境を活用した教育の推進 ・一人一台端末などの ICT 環境を活用しながら、継続した学びを確保し、一人一人の状況に応じた課題提示などで「確かな学力」を定着させるとともに、ICT を活用したグループ学習などで子どもたちの協働の学びの充実を図る。 4 安心・安全で新しいニーズにこたえる特色ある学習環境づくり (3) ICT の整備など、新しい学習環境づくり ・言語能力、問題発見・解決能力等とともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力の育成や、障害のある児童生徒への合理的配慮 の提供、さらには AI 等を活用した次代を見据えた教育を推進するため、必要とされる ICT 環境の整備と効率的な維持管理を行い、新しい学習環境づくりを進める。
	大 学		・新型コロナウイルス感染症の影響の中でも、学生に選ばれるまちであり続けるために、大学間連携を生かした学びの充実等による京都ならではの学びを追求し、京都で学びたい人が誰でも安心して学べる環境を確保し、さらに、まち全体の学びの多様性を維持・強化する必要がある。		

南区基本 計画の 未来像	京都市 基本計 画の政 策分野	基本方針	現況・課題	みんなでめざす 2025 年の姿	推進施策
健やかに暮らせるまち	地 域 福 祉		・新型コロナウイルス感染症の拡大により、新たに社会的孤立状態に陥る人々の増加が懸念されている。		2 行政・支援関係機関等の分野横断的な支援体制の強化 (1) 地域生活における多様な課題への対応の推進 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により増加が懸念される福祉的課題に対し、地域や関係機関等と連携・協働し、継続して寄り添いながら、適切な支援に結びつける。
	健 康 長 寿		・市民一人一人が若いときから健康づくりの習慣をもち、高齢になっても介護予防に主体的に取り組み、地域社会と積極的に交流するとともに、地域のさまざまな活動の担い手として活躍し、地域の支え合いのなかで健康づくりに取り組むことが重要であり、これらの取組は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、新しい生活スタイルを踏まえたものとして実践する必要がある。		1 地域や人とのつながりのなかで市民が主体的に健康づくりに取り組むまちづくりの推進 (4) こころの健康づくりの推進 ・新型コロナウイルス感染症 の影響による こころの不安や 依存症の増加、経済的困窮による自殺リスクの高まりも見据え、自殺予防の大切さやうつ病等の精神疾患に対する正しい知識の普及を図るとともに、自殺リスクの高い人を、本人や家族だけでなく、地域や学校、職場などの生活の場においても早期に把握し、相談機関等とも連携して、適切な専門相談や医療につなげるいのちのセーフティネットを構築する。
	保 健 衛 生・医療		・新型コロナウイルス感染症については、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく政府対策本部が設置され、国を挙げての対策が講じられている。京都市においても、足下の課題である新型コロナウイルス感染症はもとより、新たな感染症による健康危機事案の発生に備え、京都府や医療機関と連携し、適切な医療の提供と感染拡大防止に向けた取組が求められる。 ・外食や調理食品の持ち帰りや宅配等の中食の需要増加等の食のニーズの多様化、輸入食品の増大等の食のグローバル化など、食を取り巻く環境が変化している。		2 健康危機管理の推進 ・市内の医療機関等と連携を図り、必要な検査体制の確保、医療体制の充実のほか、医療物資・機材の確保や備蓄など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努める。 ・感染症対策マニュアルの整備や関係職員の研修、保健所の機能強化をはじめ患者発生時の適切な調査や検査体制の確立等に加え、新たに共同整備した京都市衛生環境研究所・京都府保健環境研究所も活用し、健康危機事案に対する総合的な対応力の強化を進める。 ・市民みずからが健康危機事案に対応できる知識を身につけられるよう、市民や関係団体に対して、健康危機事案の発生状況や予防対策について、迅速かつ適切な情報発信を行う。 ・広く市民が定期予防接種を受けられるよう、協力医療機関の体制整備や接種勧奨を行う。

南区基本 計画の 未来像	京都市 基本計 画の政 策分野	基本方針	現況・課題	みんなでめざす 2025 年の姿	推進施策
	生涯学習		・ICT（情報通信技術）も活用しながら，さまざまな学習機会をより一層提供することにより，必要な知識・技能の習得，人と人とのつながり・地域コミュニティの活性化，健康の保持増進に資する生涯学習を推進していく必要がある。	1 市民がまちのあらゆる場で学んでいる ・急速に変化する社会経済情勢の下でも多様な学びが提供され，市民が自身に適した学びを自由に選択し，継続して参加できるまちとなっている。	1 人生 100 年時代に向けてすべての人が学び続けることができる「学びのネットワーク」の拡充 (1) 誰もが学び続けることができるまちづくり ・学ぶことの楽しさ，深さ，尊さを実感し，いつでも，どこでも，誰でも気軽に学ぶ機会を得られるよう，ICT の活用や，幅広い生涯学習関係団体との連携の拡充により，多様な学びを提供する。
	人権・男女共同参画		・いじめや虐待，ヘイトスピーチ，インターネット上での人権侵害，感染症患者等に対する偏見や差別など人権課題は，複雑化・多様化している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により，生活不安やストレス等による被害の増加や深刻化が懸念されており，引き続き総合的な対応が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の流行といった非常時には，とくに非正規雇用の比率が高い女性がより職を失いやすくなる懸念がある。 ・新型コロナウイルス感染症により，テレワークや時差出勤など多様で柔軟な働き方が進展するとともに新たなくらし方や価値観がもたらされる可能性もあり，これをさらなる推進の契機とする必要がある。		

南区基本計画の未来像	京都市基本計画の政策分野	基本方針	現況・課題	みんなでめざす 2025 年の姿	推進施策
活力あふれるまち	産業・商業	地域コミュニティを支える地域企業の感染症をはじめとするさまざまなリスクへの対応力の強化等によって、持続可能な京都経済の好循環を生み出し、市民生活の豊かさにつなげていく。	- 新型コロナウイルスの感染拡大により、深刻な影響を受けた地域企業が危機的状況乗り越えられるよう、徹底した下支えを行っていく必要がある。同時に、雇用情勢が急速に悪化する一方で - 新しい生活スタイルへの変革が求められるなか、AI、IoT※などの新たな技術を生かしたデジタルトランスフォーメーションを推進し、中小企業の生産性向上や競争力強化を図るとともに、在宅勤務やテレワークをはじめ多様で柔軟な働き方改革に向けた取組を加速していく必要がある。 - 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い顕在化した新たな社会課題の解決につなげていく必要がある。 - 新しい生活スタイルが定着するなか、これまで以上に、時代のニーズにこたえるものづくりや流通システムへの対応、地域の特性に応じた商業の活性化が求められている。	2 多様な担い手が地域企業を支え、誰もが働く喜びを実感できている デジタル技術を生かした働き方改革の推進や雇用のミスマッチの解消によって、若者から高齢者まで世代を問わず、誰もが働く喜びを実感できるまちとなっている。	1 地域企業の持続的発展と地域企業を支える多様な担い手の活躍 (2) 多様な担い手が活躍できる働き方の実現と雇用のミスマッチの解消 府、経済界との連携によって、オール京都で担い手の確保や雇用のミスマッチの解消、働き方改革、テレワークや副業などの新しい生活スタイルに対応するワークスタイルを推進し、若者から高齢者まで切れ目のない就労、定着支援を推進する。 2 新たな価値を創造し続けるものづくり都市の確立と強靱な産業構造への進化 (1) 成長産業分野・創造的活動分野における産業振興 - ウィズコロナ・ポストコロナをはじめ、環境・エネルギー、医療・健康・介護など社会課題解決型の成長産業分野や、京都の強みであるコンテンツ、デザイン、文化芸術など創造的活動の分野において、付加価値の高い産業を創出する。 3 世界に羽ばたく企業が生まれる世界有数のスタートアップ拠点都市の構築 (2) ソーシャル・イノベーションの推進 - 持続可能なビジネスモデルを京都から世界に発信することによって、革新的な技術やサービスの提供などにより、ウィズ コロナ・ポストコロナをはじめとする人類共通の課題を解決するソーシャル・イノベーションを推進する。
	観光		令和 2（2020）年 1 月下旬以降の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、旅行需要の激減、不要不急の外出自粛等により観光客数は減少し、観光事業者の経営が深刻化するなど、京都観光は危機的な状況にある。回復に当たっては、人の移動が感染リスクの高まりにつながる可能性があるため、観光と徹底した感染症予防・拡大防止対策の両立が課題となっている。	5 安心・安全で、持続可能な観光を実現している 感染症などさまざまな危機が発生した時にも、観光客・市民双方の安心・安全と観光の両立が図られるとともに、観光関連事業者のリスク対応力が向上し、危機に強い持続可能な京都観光が確立している。	
	農林業		ウィズコロナ・ポストコロナ社会における消費者の生活スタイルや需要等の変化などに柔軟に対応するため、生産形態や販路の多様化を進める必要がある。		

南区基本 計画の 未来像	京都市 基本計 画の政 策分野	基本方針	現況・課題	みんなでめざす 2025 年の姿	推進施策
	歩くまち		・新型コロナウイルス感染症の影響により、市バス・地下鉄事業の経営はかつてないほど危機的な状況に直面している。 ・今後においては、ウィズコロナ、ポストコロナ社会における新しい生活スタイルや働き方の変化も踏まえた持続可能な事業運営を行う必要がある。 ・ウィズコロナ・ポストコロナ社会における新しい生活スタイルの実践や市民の健康増進などに向け、自転車のさらなる活用が求められている。		4 市バス・地下鉄の利便性の向上とまちづくりへの貢献 ・新型コロナウイルス感染症の影響などによる社会経済情勢の変化を踏まえた的確な経営判断の下、市民の足をしっかりと確保する。 5 自転車の安心・安全な利用環境の充実と多様な場面での活用 ・ウィズコロナ・ポストコロナ社会における新しい生活スタイルの実践や市民の健康増進などに向け、自転車の特性を生かした活用策を展開する。
いのちと暮らしを守るまち	危機管理・防災・減災	・新型コロナウイルス感染症のような経験したことのない新たな感染症，大規模停電，原子力災害，テロ災害など，あらゆる危機から市民のいのち，くらしを守るため，市民，地域団体，事業者，行政等の多様な主体のそれぞれが的確な行動を取り，相互に連携・協働するしくみをより強固にするとともに，より効果的な情報伝達体制の構築，避難体制の整備，地域防災力のさらなる充実強化により，都市のレジリエンスを向上させ，危機にしなやかに強く対応できるまちをめざす。	・新たな感染症に対しては，これまでの制度や慣習が通用せず，社会全体の速やかな行動変容と持続可能な社会経済活動の実行が不可欠である。 ・各自主防災会で，感染症下での大規模災害を想定した訓練や，避難所運営訓練の実施及び訓練結果を踏まえた運営マニュアルの充実見直し等を行っているが，地域防災力のさらなる充実強化を図るとともに，市民一人一人が主体的に行動できるよう，訓練の充実や市民への防災啓発等の強化を行う必要がある。	1 あらゆる危機にしなやかに強く対応できている ・新たな感染症をはじめとするあらゆる危機の発生時に，それぞれの役割を的確に果たし，しなやかに強く対応できている。	
	市民生活の安全		・大規模災害の発生や新型コロナウイルス感染症の拡大等の状況下において，個人等による誤った情報の拡散や心理的に不安定な状態となっている消費者につけ込む悪質商法等により，買い占めなどの合理的でない消費行動や新たな消費者被害が発生している。		
	消防・救急		・新たな感染症等に対し，迅速的確に対応する必要がある。新型コロナウイルス感染症の拡大に当たっては，急増する移送需要に対応するため，保健所等との緊密な連携の下，移送体制等の確保に取り組んでいる。		3 救急体制の充実と市民への応急手当の普及啓発による救命効果の向上 ・新たな感染症流行等に備えて，資器材の確保や傷病者の受入れ体制を構築するため関係機関とのさらなる協調を進める。

南区基本計画の未来像	京都市基本計画の政策分野	基本方針	現況・課題	みんなでめざす 2025 年の姿	推進施策
文化芸術が舞い咲くまち	文化		・新型コロナウイルス感染症拡大を受け、文化の担い手・支え手の活動に大きな影響が及んでおり、活動の継続・再開に向け切れ目のない支援が求められる。 ・新・文化庁と連携しながら、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見据え、京都がウィズコロナ社会での「文化を活用した地方創生のモデル」となり、文化芸術立国に貢献していく必要がある。	1 日常の暮らしの中に文化が溶け込み、だれもが文化に触れることができている ・新しい生活スタイルの下ですべての人が幅広い文化に触れ、親しみ、楽しみ、人生の豊かさを実感する、持続可能で多様性のある共生社会が実現している。 2 文化によって社会、経済が活性化され、国際文化交流を通じて、社会課題の克服や世界平和に貢献している ・国際文化交流が回復し、新たに展開するなかで京都・日本の文化の魅力が世界に伝わって、相互理解が深まり、社会課題の克服や世界平和に貢献している。	4 文化芸術活動を継続・発展させていくためのしくみの構築 (1) 芸術家・文化関係者とのネットワークづくり ・ウィズコロナ社会においても、文化芸術活動を継続・発展させ、京都の文化を未来につないでいくためのネットワークをつくる。
	国際		・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を契機として、従来の往来型・対面型の交流に加え、新しい交流のあり方を展開する必要がある。		
美しいまち	環境		・新型コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けている経済の回復に取り組む必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症による新たな生活スタイルの下では、使い捨て商品や容器包装への需要も高まっている。		
	道と公園・緑		・新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されるなか、ウィズコロナ・ポストコロナ社会に適応した、新たな公共空間の利活用を図っていく必要がある。	1 都市の活力・レジリエンスの向上に向けた道路整備や新しい生活スタイルに適応した道路利用が進んでいる ・新しい生活スタイルに適応するための道路利用が進んでいる。 2 公園の魅力が向上し、地域にふさわしい新たな緑が増え、大切に守り育てられている ・新しい生活スタイルへの適応など、多様なニーズにこたえる公共空間としてそれぞれの公園の特色を生かした公園整備・利活用により、住む人にも訪れる人にとっても、公園の魅力が向上している。	1 都市の活力・レジリエンスの向上に向けた道路整備や新たな道路利用の推進 ・道路空間を活用して 3 密を回避し、ウィズコロナ社会におけるにぎわいのあるコミュニティ空間を創出するなど、新たなニーズにこたえる道路利用を推進する。